

## 令和4年10月27日 参議院文教科学委員会議事録

○松沢成文君 日本維新の会の松沢成文でございます。

まず、永岡大臣、御就任おめでとうございます。

私は、新人議員じゃありませんで、出戻り議員です。ですから、ちょっと以前に行った質問も引用させていただきながら、今日は、大臣が所信でもスポーツ立国を目指すと言っておりましたので、東京オリパラ大会も終わりましたので、この辺りから質問をさせていただきたいと思います。

まず、一年延期の末、コロナ禍で一年延期の末、昨年開催されたオリパラ大会、大臣がどのように総括をされているか、お聞きしたいんですね。

コロナ禍で一年延期、そして無観客の大会と、もう異例づくめでした。ただ、その中で、組織委員会は開催に至るまでトラブル続きだったと思います。例えば、新国立競技場の建設計画の白紙撤回で作り直しなんというのもありましたし、あるいは大会公式エンブレムの盗作問題、さらには森会長の女性蔑視発言による辞任、さらには開会式直前の演出担当者の辞任だとかあるいは解任だとか、もうこれ挙げたら切りがないんですね。そして、現在は、この大会組織委員会の高橋治之元理事の汚職事件が大問題に発展をしております。

こういうことを総括されて、大臣はこの東京オリパラ大会、成功だったと思われませんか、それとも失敗の方が多かったと思いませんか。

○国務大臣（永岡桂子君） 松沢委員にお答えいたします。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、先生おっしゃいますように、コロナ禍によって史上初めて開催が一年延期されました。様々な制約の中で行われましたが、世界が一つになって難局を乗り越えられることを伝えることや、また共生社会実現に向けた大きな契機となったことは大きな意義を果たして、改めてスポーツの持つ価値を再確認できた大会であったと考えております。

組織委員会の元理事らが逮捕、起訴されたことは誠に遺憾であると考えております。他方で、本件を受けて、選手の活躍が伝えるものやレガシーを育

む努力の価値が変わるわけではなく、本件のみを理由に大会全体が否定されるものではないと考えております。

今後は捜査の進展を注視してまいります。その中で明らかになった問題については二度と繰り返さないような取組を関係者において議論をしていく一方で、東京大会を契機として創出された有形無形のレガシー、これを発展させることが重要であると考えているところです。

**○松沢成文君** ちょっとたくさん通告し過ぎましたので、ちょっと二番、三番抜かしまして、大臣は御存じないかもしれませんが、このスポンサー企業にまつわる高橋元理事の贈収賄の疑惑ですね。

私、実はこの委員会で、過去五回、高橋治之理事は本当に疑惑だらけで問題が多いから、理事としてふさわしくないから理事に就任させるべきでない、あるいは再任をさせるべきでないという五回質問しているんです。そのときに、たしか遠藤オリパラ大臣、こちらにいらっしゃいますが、橋本オリパラ大臣、さらには、馳、柴山、萩生田、各文科大臣に言っています。

どういうことを言っているかというと、この高橋さんは、もう国際サッカー連盟、FIFAの幹部の汚職事件にも絡んでいるんですね。国際捜査入っています。それから、サッカーワールドカップの日本大会の招致の不正工作にも絡んでいるんですね。さらに、東京オリンピックの招致、この招致をするときも、もう当時からコモンズという会社使っていたわけです。ここにお金を入れさせて、そしてアフリカ票を買収して東京が招致を勝ち取ったというふうにも言われて、実はフランスの検察がここを捜査しているんですね。

私、全部それ調べました。私は、この五人の大臣に、こんな危ない人を理事に絶対入れるべきでないと。そうすると、五人の大臣とも、私には人事権がありません。人事権は組織委員会が持っていますので、人事権がないのでこれ以上お答えできませんということで終わっちゃうんですよ。人事権ないなんて分かっているんです。でも、国会でこれだけ心配する、要請が出ているわけだから、調整会議ってあるんですよ。

調整会議は、文科大臣、たしかオリパラ大臣、組織委員会会長、当時、森さん、それと東京都知事だったと思いますよ。こういう場で、本当に高橋さ

んが理事になるんですか、再任なるんですかと、相当この人危ないんじゃないか、国会でも質問が出ているんですよと、もう一回しっかり考えましょと、できたらやめた方がいいんじゃないですかって言うていけば、もしかしたら、まあ森さん推薦だった人ですけれども、森さんもそれはそうかなということで、これ理事になっていなければ今回の汚職も私かなり形が変わってきた、あるいはこういう形で検察の捜索が入るようなことにはならなかったと思うんですね。

私、真剣に何度も要請したんですよ。誰も聞いてくれなかった。これ、各大臣の私は不作為じゃないかと思うんですよ。誰かがきちっと問題意識を持って調整会議でそのことを言うていたら、この疑惑は防げたんじゃない、汚職は防げたんじゃない。そのことに対して、大臣はどう思いますか。

**○国務大臣（永岡桂子君）** 仮定の質問にはお答えすることはできませんけれども、組織委員会の人事につきましては組織委員会自身で決定されるものでございまして、政府としては理事個人の選任についてお答えする立場には、申し訳ないけどございませぬ。

そして、仮に理事の適性についてこれ何か重大な問題が生じたならば、組織委員会が評議員会に諮った上で対応がなされるべきというものであったと考えております。

**○松沢成文君** まあ政府はその組織委員会だとか東京都だとかIOC、こういうオリンピックを運営する主体の、その真ん中に組織委員会いるわけですから、総合調整するというのが仕事なんですよ。そのために内閣府には担当室もつくってやっているわけで、大臣まで置いているわけですよ。総合調整する大臣が、本当に組織委員会の理事の人事でおかしい方向に行きそうだったら、それこそ調整会議で問題提起すべきだったと私は思います。

さあ、大臣、この汚職の問題ね、端的に答えていただきたいんですが、これはしっかり検証する必要はありますよね。そこ、どうですか。イエスかノーで。

**○国務大臣（永岡桂子君）** この検証ということではございませぬ、やはり現在捜査中の事案であることから、お答えは差し控えさせていただきたいと

思っております。

以上です。

**○松沢成文君** まあ、これだけの不祥事、汚職事件が起きて、検証もせずに、これで札幌招致へ進めるんでしょうかね。いや、私は本当に心配です。

さあ、実は、これスポーツ庁の室伏長官がようやく発言してくれたんですよ。

私は、スポーツ庁の室伏長官も、あるいはJOCの山下理事長も、これももうスポーツ界の中心人物ですよ。それで組織委員会の理事も務めていたわけです、二人とも。当事者でもあるんですね、東京オリンピックの。それなのに、この汚職事件が出てきて、記者会見は、もう極めて遺憾だとか、悲しいだとか、あってはならないこととか言って、まるで他人事で終わっちゃっているんですよ。

こういう発言を聞いて、組織委員会のやっぱりこれ元理事で国際体操連盟の渡辺さん、なぜ怒らないんだと、こんなことが起きてね。だからスポーツ界のリーダーは駄目なんだって喝破していましたよ。私も、誰も言わないんですね、これね。なぜなのかちょっと橋本委員にも今度聞いてみたいんですけどね、本当におとなしい方ばかり。

それで、ただ、この前、今日一日に再任されたスポーツ庁の室伏長官は、今回の汚職事件について、決して許されない、清算法人に移行した組織委員会が責任を持って対応すべきだという見解を示したんですね。まあ、一歩前進ですよ。大臣のように、これ捜査中だから今何とも言えませんじゃないです、一歩出たんですよ。

それで、ここで、国としてもこれ二千億近く公費支出していますし、この総合調整の役割を政府は担っているわけなんですけれども、私は、まずは清算法人が対応すべきだと。室伏さんも言っています。そう言った理由を、スポーツ庁、お答えください。

**○政府参考人（角田喜彦君）** お尋ねの東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の元理事等が逮捕、起訴された案件でございますけれども、この件につきましては、組織委員会が個別企業と結んだスポンサー契約

に関連するものでございます。そのことから、現在は清算法人となっておりますが、この清算法人である組織委員会が責任を持って対応すべきであると、こういう考えの下で長官が申し上げたということでございます。

**○松沢成文君** そうであれば、長官がそう言っているわけですね。大臣、長官にですね、清算法人に検証委員会を立ち上げさせると、長官のリーダーシップでそれやってくださいということをしつかり指示すべきじゃないですか。文科省として、国として、政府としてですね。

**○国務大臣（永岡桂子君）** 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の組織委員会の元理事が逮捕、起訴された件につきましては、組織委員会が個別企業と結んだスポンサー契約に関連するものであることから、現在は清算法人であります組織委員会が自ら主体的に責任を持って対応すべきものと考えております。

なお、東京オリパラの大会の開催に当たりましては、国として協力や支援を行ってきたところでございますが、文部科学省としては、同組織委員会に対しまして指導監督できる立場ではないということをお理解いただきたいと思っております。

**○松沢成文君** まあ権限がない、立場がない。これじゃスポーツ立国なんか一生できませんよ、大臣。

実は、東京都はこういう条例持っているんですね、東京五輪大会に係る文書等の保管及び継承に関する条例。これ、やっぱり長野オリンピックで招致疑惑があったんだけど、その後捜査に入っても書類が全部焼却されちゃって何も発見できなかった、その反省を基に、東京五輪ではこういう文書を保管して継承してしっかりと取っておこうと、こういう条例が議員立法でできたんですよ。

この条例はまあ強制力はないということなんですけれども、都が組織委員会に改めてこの議事録だとか交渉記録だとか契約の会計書類などの提供を強く要請して、これらを手に入る私は可能性があると思っています。これを使って、大臣、やらせましょうよ、東京都に。一緒にやってきたんだから。小池さんもこういうことになると全然改革しないのよ。みんな逃げちゃ

って、捜査の結果を待ちたいと思いますとかね。

だから、ここぞ大臣が出て行って、小池さん、こういう条例があるんだから、これ使ってしっかりと情報公開させてくれと、そうすればかなり中身が分かって検証ができるよと。小池さんと協議してくれませんか。

**○国務大臣（永岡桂子君）** お答えいたします。

御指摘の条例につきましては、東京都で定めたものでございまして、この条例に基づく資料の提供等の要請につきましては、東京都におきまして適切に対応されるものと考えております。都の個別の条例につきましては、文部科学省としてお答えする立場にはございません。

それから、なお、東京都や国が費用を負担する事業につきましては、それぞれの事業の執行が完了した後、組織委員会と東京都、国の三者によります共同実施事業管理委員会におきまして組織委員会に対する支払の前にその執行をチェックする仕組みとなっております。国の支出分につきましては、適切にチェックを行いました。

**○松沢成文君** スポーツ庁長官、室伏長官が、清算法人にしっかり検証をさせろ、させるべきだ、そこがやらなきゃいけないんだと言っておきながら、その長官を抱えている文科大臣が、法的に難しいだとか、東京都に任せるしかないとか、捜査の様子を見なきゃ何とも言えないとか、もうこんなことをやっていたら、一生この疑惑、国として検証、総括できませんよ。これでいいんですかね。

私はね、新たに提案します。清算法人でその検証委員会をつくるのはなかなか難しいという今説明がありました。そうであるならば、文科大臣、スポーツ立国をつくるという、あなたは我が国のリーダーなんだから、そうであれば、国と東京都が連携して、JOCと清算法人にも協力してもらおう形で、東京五輪の検証総括委員会というのを政府主導で立ち上げたらどうですか。それで、来春までに検証して総括して、それを発表するんですよ、改革案を。そうしないと、札幌五輪に行けませんよ、何の総括もしないで。どうですか、それぐらいやってくださいよ、国で。

**○国務大臣（永岡桂子君）** 東京パラリンピック競技大会の組織委員会の元

理事等が逮捕、起訴された件につきましては、組織委員会が個別企業と結んだスポンサー契約に関連するものでございますので、現在、清算法人であります組織委員会が責任を持って対応をすべきものと考えております。

東京大会は、組織委員会、東京都、そしてJOCがIOCと開催都市である東京都と契約をいたしまして運営されるものでございます。国は支援をする立場でございました。

御指摘の内容につきましては、文部科学省としてはお答えする立場になく、現在は清算法人である組織委員会が必要に応じ、JOCやそして東京都と連携をしまして協力をしていくべきものと考えているところでございます。

**○松沢成文君** 今日、先ほどのニュースで、二〇三〇年の札幌の冬季オリンピック・パラリンピックの招致を目指す日本のJOCと札幌市が、東京五輪のスポンサー選定をめぐる贈収賄事件を踏まえて、大会運営の透明性、公正性の確保等の具体的な検討を十一月中旬から始めると発表したんですね。

これ、札幌とJOCにやらせるんじゃないくて、こんなに不祥事だらけにしてしまった東京五輪をやった主体が検証、総括して、それを受けて、札幌は二度とこういうことにならないようにこういうふうに変革してやるんですよというのが順番でしょう。国が何にもやらないで、札幌の方に、国がこういうことを、ああ、東京五輪でこんな失敗しちゃったから私たちはそうならないようにしますと。でも、それ検証していないので、どんな失敗かよく分かっていないわけですよ。ちゃんとどんな失敗だったか徹底して調べることです。組織委員会のガバナンスはこれでよかったのか、人事体制はこれでよかったのか、コンプライアンスはこれでよかったのか、スポンサー企業との関係はこれでよかったのか、全部調べて、検証して総括して再発防止案を出すんですよ、それを受けて札幌がやるんですよ、それが順番でしょう。全く逆だ。

大臣、これを来年の春までにやりましょうよ。札幌の招致決まるのは来年の秋です。でも、春頃にはもうIOCの中でもう大分どこでやるかというのが、今度は投票じゃないですからね、札幌というふうになってくると思いますよ。そうしなきゃいけない。それには、来年の春までに徹底した東京五輪

の失敗に対する検証、その改革案出して、そしてI O Cに堂々と持って行って、日本は大丈夫です、こういう改革案を出しました、札幌でやらせてください、これが順序だし、これができないと札幌の皆さんかわいそうですよ。こんな評判の悪い日本でまたオリンピックやるのかって話になっちゃう。どうですか、大臣。

**○国務大臣（永岡桂子君）** 二〇三〇年の冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致に当たりましては、J O C及び札幌市は、本年九月、大会運営の透明性、公平性の確保について宣言文を取りまとめたところでございます。

さらに、今月の十七日には、スポーツ関係団体とスポーツ庁による円卓会議におきまして、今後の大規模な、スポーツ庁による、あっ、ごめんなさい、今後の大規模な競技大会の円滑な開催に向けまして、決議を取りまとめたところでございます。

本事案がスポーツ界全体に及ぼす影響は重大であるとの認識の下に、文部科学省といたしましても、スポーツ関係団体と連携、協力をしながら必要な取組を進めてまいりたいと考えております。

**○松沢成文君** 大臣、本当、スポーツ立国を目指すのであれば、オリンピックの中心的、推進の組織であるJ O Cの山下会長、そして国の方では室伏スポーツ庁長官ですよね、このお二人呼んで、国会でもこういう指摘あったと、やっぱり東京オリンピックの徹底した総括の、検証、総括の組織つくって、そこできちっと議論して改革案を出そうと、そういう議論をしてくださいよ、三人で。リーダーなんだから。是非ともそれお願いしたいと思えます。

さて、次に行きます。

次は、ちょっと私、属人的な質問をするのは嫌なんですけど、やっぱり組織の長のリーダーシップとしてお聞きしたいんですが、大臣は森元組織委員会会長のリーダーシップをどのように評価されていますか。

**○国務大臣（永岡桂子君）** 森元組織委員会会長におかれましては、I O Cとの強い信頼関係を築かれるとともに、開催都市の東京都や、政府、スポー

ツ団体など様々な関係者との調整に御尽力をいただきました。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして史上初の一年延期となった大会開催に道筋を付けられるなど、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けてリーダーシップを発揮されたと考えております。

**○松沢成文君** 実は、私、森会長についてでも参議院の本会議と実は予算委員会で取り上げているんです。結論からいうと、森会長は様々な問題がやはりあるので、私は、早く御勇退なされて、新しい会長の下で五輪を迎えた方がいいんじゃないかと言っているんです。

もうちょっと詳しく説明しますと、御自身ががんを告白されて、二〇年までもつか分からないということも言っていたんですね。それから、組織委員会も様々なトラブルを抱えていました。さらに、不適切な発言もあったということで、私は、コロナで一年延期になったから、最後、もう一回、一年間掛けて次の延期されたオリンピックを準備しなきゃいけないので、ここで森会長には御勇退いただいて、そして、新しい会長、新しい組織委員会をつくり直して、オリンピックを一年後、準備し直して迎えた方がいいんじゃないかと真面目に進言したんです。そうしたら、安倍総理は同じようなことをおっしゃってました。すばらしいネットワークをつくってきた方で、余人に代え難いんだということで、まあそれはかなわなかったわけなんですね。予算委員会でも同じような質問をしたんですが。

で、その後、女性蔑視と取られる発言があって、自ら辞任をして、その後、橋本さんが会長になっているということですよ。これも、私の進言を真剣に聞いてくださっていれば、このトラブルも私は防げたんじゃないかなというふうに思っていますが、大臣、いかがですか。関係ない。

**○国務大臣（永岡桂子君）** 松沢委員のこれまでの国会におけます御発言につきましては全てを承知しているわけではございませんけれども、過去、委員から大会組織委員会の体制を一新すべきとの御趣旨の御発言があったことは承知をしております。

なお、委員の御指摘の点につきましては、仮定の御質問でありますので、お答えすることは差し控えさせていただきます。

**○松沢成文君** それで、今回の高橋元理事の疑惑の中でも、森元会長が高橋元理事と様々なスポンサー企業との一緒の場にいたとか、あるいは、報道によっては二百万円手渡しされたとか、様々この疑惑の中に入ってきちゃっているわけですね。

そういう中で、大臣は、森喜朗先生顕彰胸像建立計画事業というのがあるって、今進んでいるというのは御存じですか。

**○国務大臣（永岡桂子君）** 森喜朗氏のスポーツ界における功績を顕彰するために、有志の発起人によりまして同氏の胸像を建てるとのお話があることは報道で知っております。

**○松沢成文君** この事業、森元会長のこれまでの実績をすばらしく書かれておりまして、体育協会の会長から始まって、ラグビーワールドカップの招致も頑張った、オリンピックも成功させた、それ何かスポーツ基本法は森さんが立て役者だ、こんなにすばらしい方なんだからみんなで胸像を掛けて敬おうと、だからお金出してちょうだいという、すごい美化した趣意書、発起人の趣意書なんですね。

まあもちろん、これできたの五月ですから、これが書かれたのは。あの疑惑が表に出てきたのは七月なので、その疑惑の件はなかった時期ではありますけれども、それに十五名の方が発起人になっています。政治家では橋本委員もなられていますし、あるいは馳さん、知事ですね。それから何人かほかにもおられますけれども、スポーツ界、ラグビー界の重鎮がばあっと並んでいて、いや、すごい人たちが集まって森さんをたたえているんだなとびっくりしちゃうんですけれども。

さあ、この中に、室伏スポーツ庁長官と、今JSCですね、文科省出身のJSCの理事長をやっている芦立さんというお二人が入っているのは、大臣、御存じでしたか。

**○国務大臣（永岡桂子君）** お尋ねの発起人に室伏長官や芦立JSC理事長入っていること、報道で知っております。

**○松沢成文君** 私は、民間の皆さんが集まって民間ベースでやっていくというのは、これは自由だと思うんです。森さんに対する評価も様々あると思ひ

ますが、森さんすばらしいという方が集まって銅像を造ろう、胸像を造ろうというのは自由だと思うんですが、ただ、公務員の方がこの発起人の中に入っている。それも、スポーツ庁長官とって日本のスポーツ界のトップリーダー。それから、JSCというのは国立競技場や秩父宮ラグビー場やあの辺の全て抱えている大地主さんで、もうスポーツではtotoなんかも全部JSCが今やっていますよね。そういう文科省が所管する独立行政法人ですよ。で、理事長さんです。この方、高橋さんと同じみなし公務員なんですよ。

この二人の公務員が入って、発起人で皆さんよろしくとなったら、これは国がお墨付きを与えていると勘違いされちゃうんじゃないですか。純粋な民間の方が民間の考えでこういうことをやっていこうというのは私は全然否定しません。国家公務員がこの中に入っているというのはまずいんじゃないですかね。どうですか。

**○国務大臣（永岡桂子君）** この事柄でございますが、室伏長官、また芦立理事長は、あくまで任意で個人として発起人に名を連ねているということでございまして、組織として寄附を募っているものでもございません。特段の問題があるとは考えておりません。

**○松沢成文君** 発起人になるということは、皆さん、この献金、募金活動に協力してくださいという呼びかけ人なんですよ。それが国のやっぱり、を背負っているトップリーダーの方が入っていたら、これみんなほかの人はどうしようかなと思って、いや、室伏さんも入っている、芦立さんも入っている、じゃ、これ国も一生懸命やっているんだらうと、じゃ付き合わなきゃなと、みんなこうなりますよね。

だから、この辺のコンプライアンスも全くできていないんですよ。何か森さんが大変な方だから、その周りにいた森ファミリーの方はみんな協力しよう、分かった分かった、なあなあ、やっていこうやっていこう、これで行っちゃって、全くコンプライアンスができていない。

これだから、私は、組織委員会のガバナンスも取れないんです。やっぱり権力を持った方が長いことやっている、その周りにいる方はみんな側近に

なっちゃって、誰一人、進言したり諫言したり、いさめて、会長、おかしいじゃないかと、ここはこうやるべきだということをする人がいなくなっちゃったから、森さんも暴走しちゃうし、それとつるんでいた高橋さんも、これは俺らがやればいいじゃないか、その方がうまくいくぞと、電通と組んで、みんなああいう賄賂をもらってスポンサー集めを自分がやっちゃったわけでしょう。こういうコンプライアンスが全然できていないんですよ、ここも。だから、こういうことになっちゃうんです。

じゃ、ちょっとスポーツ庁に聞きますね。

これ、事前通告してあるんで、これ芦立さんと室伏さんに聞いていただいたということで答えていただきたいんですけども、まず、お二人が発起人になった経緯。それから、これまで、九月末までだったというので、集まった金額。それから、胸像の作製費、どういうふうになっているかですね。

それで、もし、これ報道によると、三、四百万で胸像ができるのに五千万集まっちゃったと聞いているんですよ。そしたら、じゃ、その余ったお金は誰に行くのか、森さん本人に贈呈しちゃうのか、そこも分かったら教えてください。それから、オリパラのスポンサー企業からの献金がここに入っているのか、これも教えていただきたいと思います。

それと、最後に、これ一番大切なんですけど、この胸像をJ S Cが管理している土地、建物の中に建てるということも考えているのか。そうであるとすれば、これはもう物すごい関与ですからね、知りませんじゃ済みませんよね。この点についてスポーツ庁からお答え願います。

**○政府参考人（角田喜彦君）** 御指摘の点につきまして、室伏スポーツ庁長官、芦立スポーツ振興センター理事長に確認をいたしました。

御両名とも、この経緯につきましては、お声掛けをいただき、胸像を造りたいとの趣旨に賛同し、個人として発起人となったと聞いているところでございます。

また、今委員から御指摘のございました寄附金の総額、また作製費、そしてスポンサー企業から寄附があったかどうかにつきましては、これも確認いたしました。把握していないとお答えがございました。そのように聞いて

ございます。

また、お尋ねの胸像の設置場所につきましては、新たな秩父宮ラグビー場内に設置を予定しているラグビーミュージアムも含めまして、日本スポーツ振興センターが所有する施設内に設置する予定はないと承知をしております。なお、室伏長官、理事長ともに、胸像の場所につきましても把握していないというふうに聞いているところでございます。

**○松沢成文君** 発起人になっているのに何も知らないわけですよ。こんなことでいいんですかね。

というのは、私が心配しているのは、この募金に対する寄附がスポンサー企業から行われていた場合、これ、森先生にお世話になったんで、直接渡すと賄賂になっちゃうんで、謝礼としてこの献金でお返ししようということを疑われてしまう可能性もあるんですよ。というのは、この募金集めに高橋氏も関わっていたという報道もたくさんあるんですね。そうなったら、新たな謝礼金、つまり贈収賄の受皿になってしまう可能性もあるんですよ。だから、非常に私は気を付けなきゃいけないというふうに思っています。

大臣、どうですか。だから、コンプライアンスが必要なんです。それも、全く、発起人になるのに、胸像を頼まれたからやっただけだと、私人の立場だと、幾ら集まったかも知らない、どこに置くかも知らない、そんなの俺に聞いてくれるなど、こんな無責任なことでしょう。十五人の発起人ですよ。この発起人で決めるんでしょう、これを。幾らぐらい集まったから、じゃ、この余分なお金はどうしようか、どこに建てようか。だから、スポーツ庁長官がこんな無責任でコンプライアンスのないことやっちゃ駄目ですよ。

大臣、スポーツ庁長官に厳しく注意してください。芦立さんに厳しく注意してください。どうですか。

**○国務大臣（永岡桂子君）** これは個人的に長官も理事長もおやりになったこととございますので、そこまでのことは御注意できないと、そういう認識でございます。

**○松沢成文君** 本当に、これが変にスポンサー企業からの新たな賄賂に使われているような変な流れにならないことを私は祈りますけどね。これまでの

高橋氏のやり方見ていると、こういうことも平気でやる方じゃないでしょうか。私はずっと彼の足跡を見てきて、かなりあくどい方だなというのを感じていますし、事実彼がやったことが今全部暴かれていますよね。

さあ、最後、大臣、もう一度聞きますけれども、この東京オリンピック、様々な問題があったんです。そして今でもこのスポンサー企業との、元理事の贈収賄の件で、大変ですよ、もう逮捕者十数人出ていますよ。高橋氏自体も四回目の逮捕ですよ。まだまだ検察の捜査が進んで逮捕者増える可能性もありますよ。

これ、東京オリンピックは、本当にスタッフの皆さん、ボランティアの皆さん頑張って、私はいいレガシーも残したんだと思います。コロナの中で本当にみんなで頑張って、どうにか一年延期でやり遂げたんだと思います。それは私は大いに評価することだと思いますが、そのいい意味でのレガシーに全部泥を塗るような組織委員会の贈収賄の、もうこれ疑獄ですよ。どんどん進んじゃっているわけですね。

これをしっかりと検証しないで前に進んでいいんですかということです。それを東京都も逃げている、JOCも逃げている、スポーツ庁も逃げている。そうであったら、日本のスポーツ行政のトップリーダーである文科大臣、あなたがそういう関係者を集めて、そして徹底した検証をやっていこうと、総括をやっていこうと、そのための委員会をつくろう、それを札幌の前にしっかりと打ち出そう、これぐらいのリーダーシップ示してくださいよ。それが大臣の責務ですよ。大臣、いかがですか。やってください。

**○国務大臣（永岡桂子君）** お答えいたします。

本事案がスポーツ界全体に及ぼす影響は本当に重大であるとの認識の下に、文部科学省といたしましても、スポーツ関係団体と連携、協力をいたしまして、必要な取組を進めてまいりたいと考えております。

JOC及び札幌市の宣言文ですとか円卓会議の決議では、運営面の透明性、公正性を確保していくために、組織委員会理事会の在り方、そして利益相反取引の管理及びマーケティング事業の在り方、そして、これについてもしっかりと検討していくこととされておりました、文部科学省といたしまし

令和4年10月27日 参議院文教科学委員会

でも、関係団体と連携しながら検討に協力していきたいと考えているところでございます。

○松沢成文君 時間ですので、終わります。ありがとうございました。